

## 令和2年度

### 第4回草津市環境審議会 会議録（概要）

#### ■日時：

令和2年9月9日（水）14時00分～15時50分

#### ■場所：

草津市立草津アマカホール 2階 研修室

#### ■出席委員：

小林 圭介委員（会長）、磯貝 佳則委員、太田 一郎委員、海東 まどか委員、久保木 毅委員、杉江 香代子委員、壽崎 かすみ委員、樋口 能士委員、堀井 喜一委員、松村 幸子委員、森 毅委員、山川 正信委員、山元 孝子委員、横田 岳人委員

#### ■欠席委員：

山田 淳委員（副会長）、小笠原 好彦委員、奥田 裕介委員、阪口 一男委員、中川 智委員、山崎 賢委員

#### ■事務局：

環境経済部	藤田部長、田中副部長、高岡副部長
環境政策課	相井課長、柴野係長、榎本主査、山城主事
くさつエコスタイルプラザ	辻館長、古田主任
資源循環推進課	中島課長
農林水産課	三浦副係長
上下水道施設課	川元課長補佐
都市計画課	居川主事
企画調整課	村上副係長
歴史文化財課	岩間課長
健康福祉政策課	田村係長
草津川跡地整備課	舩山主任
公園緑地課	西岡参与
学校政策推進課	上原課長
商工観光労政課	河原課長補佐

#### ■傍聴者：

なし

#### ■議題等：

1. 第3次草津市環境基本計画の策定について

## 1. 開会 挨拶

## 2. 議事概要

---

### 【事務局】

<資料①、③について説明>

### 【委員】

概要版で、「達成目標」、「施策」、「私たちにできること」の関係が分かりづらい。例えば、1 番目の「環境について学び行動できる地域社会づくり」であれば、「達成目標」が二つあるが、「施策」は三つある。達成目標だけ市民に見えてしまうと、施策に関係ない部分が出てくるのではないか。つまり、「私たちにできること」と「達成目標」の関係が見えない。

基本計画では達成目標は挙げたほうがいいが、概要版で達成目標を挙げても、市民目線では疑問が生じるだけだ。

### 【委員】

13 ページの「エネルギー消費の小さい活動について」という部分の「活動」という言葉は、最近、新しい生活様式という言葉もあり、「日常生活」などのほうがよい。

37 ページ等で、達成目標に「者数」を用いているが、これは「人」では表現できないか。「者数」という表現を普段あまり使わない。これは団体数なのか、人数ではないということか。

### 【会長】

者数ということには間違いない。個人の数と団体の数を合わせて、「者」という表現が、行政情報として使われている。

### 【事務局】

個人だったり団体だったり事業所であったりと様々であり、人数となると表現しにくい。表現はまたこちらで検討させていただきたい。

### 【委員】

第2次環境基本計画でも「者」と書かれているのであればそれでよい。

### 【委員】

13 ページ、14 ページの基本方針2の②、③で、「しかし」、「具体的には」等といった形で結果の理由についての詳細が書いているが、P15の基本方針5になると詳細が記載されていない。今回訂正した箇所と同じように書いてほしい。

39 ページの「気候変動の影響への適応の推進」で、取組事例の「気候変動の影響に備える適応策の取組」の2番目で、「ハザードマップや避難経路、避難場所の確認など、災害に関する対策」という部分があるが、対策をどうするのが気になる。その上に、「適応策の認知度向上を図る普及啓発」と書かれているが、ハザードマップや避難経路というのは、対策として何をするのが分かりにくい。

66 ページに出典として記載されているホームページは日々更新されるので、更新日を記すべき。

概要版について、基本方針ごとの施策は、「私たちにできること」という部分が、市民、地域と事業者の二つに分けて書いてある。しかし、リーディング事業では、「私たちにできること」だけになっている。この私たちというのは誰なのかが分かりにくい。

「いきもの自然学校」では、「環境保全を推進するためのセミナー等に参加しましょう」とあり、市民も対象と考えられるが、メニューを考えるのが市民だとすると、ハードルが高いと考える。

普通の市民が読んで、この程度ならやってみようと感じる程度の内容にしてほしい。

### 【委員】

概要版について意見を述べたい。1 ページの2次計画の成果と課題という部分で、基本方針1、2、6は、成果が書かれていない。

本編に関して、42 ページの未利用水の利用促進の部分の二つ目に雨水の浸透柵や透水性の舗装ということが記載されているが、洪水対策のように見え、雨水の利用になるのかと疑問に感じた。

【委員】

概要版の私にできることという部分について、説明文がとてもよくまとまっているが、字が小さい。もう少し改善していただきたい。

【委員】

現状と課題を分析し、課題と施策、方針とのつながりが分かるような形にしてほしい。

まず、10 ページから始まる、第2次草津市環境基本計画の成果と課題について、基本方針1の環境学習社会づくりで、「幅広い層が興味関心を持って参加、参画できる仕掛けが必要です」とあるが、どのように取り組んでいくかという記載がない。

基本方針2の低炭素社会への転換で、「温暖化対策に取り組む市民の割合は横ばい状態にあります」という記載があるが、横ばい状態をどのように上げていくのかという点が記載されていない。

それから、「市民、事業者が自ら取り組む動機付けと関わり方」とあるが、どうやって動機付けをし、どのような関わり方をするのかという施策がわからない。

11 ページ、基本方針4の課題の最初のほうで、「自然環境保全地区等の管理や地域の協力体制等に課題が出てきています」とあるが、どのようにこの課題を解決していくかという記述がない。

基本方針5の環境汚染・公害への適切な対策の部分の課題の2番目に関連して、原因調査について書いていない。このことの原因調査をしなければいけないのではないか。

リーディング事業の位置付けがよく分からない。これも進捗管理をするのか。計画を立て、スケジュールを立て、実行し、審議会で報告する、それはぜひよろしくお願ひしたい。

【委員】

概要版だが、難しい言葉が並んでいて分かりづらい部分がある。

先日、『草津市の自然』という本を読んだが、素晴らしい内容で草津市そのものの自然について詳しく書かれている。これを学校等に置けば、草津市の自然について理解が深まると考える。そうすれば、いきもの自然学校の中でやるべきことについての理解に繋がるのではないか。

【委員】

46 ページのBODの達成状況について、調査回数は毎月12回と書かれており、目標として24回の調査のうち24回の達成を目指すということまでは分かるが、調査河川の二河川とはどこの川か。

【事務局】

二河川は、伊佐々川と狼川である。河川名について追記する。

【委員】

11 ページに「農業体験や園芸」という表現があるが、これが29ページになると「農や園芸」になっている。これはなぜ農なのか、確認して欲しい。

【事務局】

文言については「農業」で統一する。

【委員】

図の追加や箇条書きへの変更と、今までより見やすくなったと思う。

25 ページに廃棄物の発生の抑制と資源化または適正処理に努めるという記載があるが、再利用の観点から抜けているのではないか。

文の隣の3Rの図について、リデュースは無駄な買い物をしないことやマイバッグを持つこと、リユースはフリーマーケットやメルカリ等、実際に取り組まれていると思うが、資源ごみの分別といったリサイクルはあまり取り組まれていない項目であり、こだわって記載して欲しい。

25 ページで基本方針3は説明の少ない図のみで、違和感を覚えた。マイバッグのイラスト等、わかりやすいものがあると理解しやすい。再利用は、32 ページの施策体系や概要版にも反映してほしい。

【委員】

12 ページの基本方針6のうるおい豊かな環境づくりの成果の二つ目について、くさつエコスタイルプラザができ、持ち込みごみが増えて不法投棄が減少したということであったが、文章では不法投棄が

減少しましたという記載だけになっている。滋賀県も不法投棄のパトロールをしており、分析がもしできるのであれば、不法投棄の減少理由についての記載はあった方がよい。

62 ページの④の記載が再生エネルギーとなっているが、恐らく再生可能エネルギーだと思う。語句を統一されたほうがいい。

66 ページのコラムについて、この二つの事例を取り上げた意図はあるのか。特に鳴門市の例では農薬や化学肥料を 5 割減していると紹介されているが、滋賀県でも、環境こだわり農業で農薬や化学肥料を減らしたものを推進しており、ロゴマークもある。県の取り組み以上の考えがあるのか、何か意図があるのか気になった。

31 ページの環境イノベーションについて、滋賀県の取り組みは、市で考えているより範囲が狭いかもかもしれない。滋賀県では、CO2 削減に寄与する商品や製品、サービスを、滋賀発低炭素ブランドとして認定している。また、中小企業では、東京都まで行くのは難しいのではないかという事で、滋賀県がエコプロダクツ展のブースを取り、県の職員が参加するという事業をしている。もしそういったものと連携できるのであればよいと思う。

融資の話も出ていたが、滋賀県にもいくつか融資制度があり、そのひとつとして SDGs 推進企業応援枠として社会的課題の解決に資する産業分野の事業に対して融資するという制度がある。また、滋賀銀行ではマッチングを行っており、滋賀県ではかつてびわ湖環境ビジネスメッセを開催していた。既に他で実施しているさまざまなプラットフォームを活用し、それをより草津市で盛り上げていくようにすれば、県とも連携することができ、よいと思う。

## 【会長】

外来種のアライグマ、ヌートリア、ハクビシンの捕獲数を達成目標としているが、これは生物多様性と真逆の話である。外来種が生物多様性に必ずしも直接関与するとは思わないが、外来種を多く捕獲したということは、解釈の仕方によっては、生物多様性に反するとも解釈できる。そのようなあやふやなものを達成目標とするのは疑問を感じる。

生物多様性というのは生態系の多様性、種の多様性、希少種がたくさんいるといったことである。それを達成目標にするには何がいかということを見ると、全員に分かりやすく、しかも生態系、種の多様性に深く関わるといふ点で、コガネグモというクモがひとつ挙げられる。

コガネグモは黒く、しま模様のあるクモで、かつて公害の指標となる動物として名をはせていた。コガネグモは在来種の昆虫を食べて生きており、その昆虫を見れば餌となっている在来種の植物も分かる。コガネグモが巣を作るのは都市部ではなく、自然の中の樹木や草がある場所である。

このようなクモの生息数等を目標値にすれば、例えば、子どもたちに調べさせたり、ある地域を決め、その中でコガネグモが増えたり減ったりしたらどうするのかと、考えたりすることができる。あるいは、市民全体で毎年コガネグモのいる所を市に報告してもらい、その数でだんだん目標を達成していくということも考えられる。

ただ、これまでにそのような実績を積み重ねておらず、どのようなやり方がいいのかは分からない。ある地域を決めて、その中でコガネグモが増えているということであれば、それはまさに生物多様性を高め、さらには推進していくということになると思う。コガネグモを挙げたが、生態系の頂点は本来猛禽類や鳥の部類になる。しかし小さな草原や市内では、コガネグモが生態系の上位に位置するので、そのようなものが豊かに生息していれば、当然、生物多様性も豊かであるということが言えるのではないと思う。そこで、生態学を研究している委員にお伺いしたいが、何か良い案はないか。

## 【委員】

コガネグモは非常に良いと思う。他にもカエルの仲間など、複数の生態系の要素を移動しながら暮らすものは、水環境と森林、里山的な環境と両方を使う。単一の環境に住んでいる生き物ではなく、複数の環境、つまり複数の豊かな自然を使わなければ生きられないという生物もいる。そのような生物をターゲットにする方法もある。

また、セミの抜け殻調査が様々な博物館で行われている。地下で長い間生きているので、その自然環境が長期にわたって持続的に維持されている所でない、セミは多く出てこない。羽化したものは抜け殻の数である程度分かるので、定量的に評価できると思う。

外来種問題に関するタンポポの調査は、DNA を使わないと厳密には難しく、あまり一般市民向けではないが、近畿地方の各地の博物館が、どのくらいの割合で外来のものがあるのかということ、市民を

含めて調査している。特に、草津市には琵琶湖博物館があるので、そういった博物館との共同の中で、草津市の自然について項目を決め、豊かさの指標をつくり上げてもいいのではないかと思う。

ただ、恐らくこれまでの実績というものがないので、今のところ、どう改善してきたかを評価することができない。そのため、今後このような指標に切り替えていくことも含め、調査を開始していくことは大事だと思う。もちろん、外来種の捕獲数という指標は、増えてほしくない外来種が多く捕れて効果があるという矛盾した指標になっているので、あまり好ましくない。

一からは始めることは難しく、中間段階で切り替えるのかどうか分からないが、できればそのような新しい指標に切り替えていくとよいと思う。自然と共に生活する環境づくりの達成目標に資する目標づくりを、内部で進めていく必要があるのではないか。その上で、会長の提案されているコガネグモは、非常に魅力的な指標だと思う。

#### 【委員】

この点に関しては私も前回指摘した所で、配布資料の事務局対応意見には、どれだけ確かな指標かは分からないが、目撃数なども参考程度に示してはどうかという提案に対し、それは参考に、書き方を考えて記載するとあり、それで納得していた。しかし、今の委員の話もあり議論の結論からすると、達成目標自体を考えるとということ、どこかに記載してもよいのではないかと思う。

#### 【会長】

先ほど委員から指摘があったが、66 ページに挙げてある地域循環共生圏の二つの取り組みについて、ここを取り上げる根拠はない。

#### 【事務局】

概要版は市民の皆さまに見ていただく資料として作成した。達成目標の数値を本当に載せるべきなのかという意見と、「私にできること」の字が小さいという意見があった。達成目標は省略し、「私たちにできること」を見やすいような形にあらためたいと思う。

#### 【会長】

委員から他に意見がなければ事務局で取りまとめてもらい、その上で、これは大きな問題だということがあれば、もう一度議題にかけるということで、委員に同意を得たいと思うが、それでよいか。

では、事務局でまとめ、ここは大きな問題になり過ぎたということがあれば、次回説明をお願いする。本日は、修正はあるが、こちらの案をおおむね認めていただいたということにしたいと思う。

#### 【委員】

修正程度で済むということであれば、事務局で完成させるということによいか。

#### 【会長】

その認識でよい。

#### 【委員】

66 ページは全て削除ということだが、滋賀県の取組の事例の取り扱いについてはどうなるのか。

#### 【会長】

いいものがあれば取り上げてよいと思うが、滋賀県の事例を必ずしも取り上げる必要は無い。

### 3. 閉会

---

#### 【委員】

概要版の達成目標の削除、活字の大きさや数に配慮して、市民に興味を持って読み続けてもらえるものにしていただければと思う。

#### 【事務局】

会長にまとめていただいたように、大きな修正点がなければ、次回は下物町観音堂のクロマツの保護樹木の指定について御審議いただく予定としている。

以上